

ワセウンシュウミカンの収穫時期が果実の 品質ならびに翌年の着果におよぼす影響

渡 部 潤一郎・小 山 一 夫・井 上 莊 三
幾 島 通 成・沢 田 清・藤 田 政 利

近年、果実消費の動向は高品質化への要求が強く、生産者はそれに応じるため、各地で各種の栽培方法を試みている。ワセミカンの収穫時期を遅らせた完熟栽培法も一つの方法である。一般に、収穫時期の遅延は果皮色の退色や翌年の着花などに影響をおよぼすことが言われている。そこで、完熟によって品質を向上させるとともに生産の安定を図る技術的な資料を得るため調査を行った。

1. 収穫時期と果実の品質との関係について、表-1、表-2、表-3に示した。1988年度は一般に糖度が低く、収穫時期を遅らすことによる糖含量の増加は少なかった。1989年度は収穫時期が遅れるほど糖含量の増加が多く、甘味比も高かった。また、果皮率も収穫時期が遅れるほど高くなる傾向を示した。1990年度は1989年度と同様の傾向を示した。ただ、1990年度は減酸量が多かった関係で、甘味比は大変高くなった。

表-1 収穫時期と果実品質(1)

(1988年度)

項 目 収穫月日	一果平均重	糖 度	酸 度	甘 味 比
11/18	164.77 ^R	9.09	1.097	8.28
11/28	154.80	9.46	1.141	8.29
12/ 8	156.81	9.80	1.033	9.49
12/22	147.22	10.03	1.061	9.45
1 / 9	144.94	10.21	0.969	10.55
2 /17	137.69	10.57	0.873	12.11

表-2 収穫時期と果実品質(2)

(1989年度)

項目 収穫月日,方法	一果平均重	果皮率	糖度	酸度	甘味比
11/15全量収穫	134.21 ^g	22.22 [%]	9.50	1.050	9.05
12/15全量収穫	124.99	24.45	10.72	0.937	11.44
1/16全量収穫	119.93	25.07	11.38	0.903	12.60
11/15分割収穫	126.46	21.68	10.04	1.082	9.28
12/15分割収穫	119.27	23.99	11.00	1.062	10.36
1/16分割収穫	113.71	24.81	11.84	0.968	12.24

表-3 収穫時期と果実品質(3)

(1990年度)

項目 収穫月日,方法	一果平均重	果皮率	糖度	酸度	甘味比
11/15全量収穫	163.15 ^g	19.17 [%]	10.16	1.08	9.43
12/13全量収穫	178.16	21.81	11.32	0.86	13.10
1/14全量収穫	134.83	23.27	12.68	0.81	15.65
11/15分割収穫	156.96	18.63	11.10	0.95	11.68
12/13分割収穫	161.89	21.19	12.18	0.82	14.84
1/14分割収穫	136.88	20.52	12.74	0.72	17.69

2. 収穫時期が遅れると果皮色が退色するので、果皮の着色についても調査し、表-4に示した。a値は樹の南側、北側とも陽光面で高く、b値は低かった。その結果、a/b値は果実の陽光面で高く、小原ら(1)の指摘している陽光面の退色はあまりなかった。その理由として、ほ場が北斜面であることと品種が退色の少ない興津ワセであること。さらに、収穫時期が退色の初期であったことなどが考えられる。

表-4 完熟期における果皮色

(1988. 11. 25)

位置		色調	L 値	a 値	b 値	a/b 値
		樹の南側	陽光面	59.57	30.69	27.91
日陰面	63.04		29.31	30.56	0.96	
樹の北側	陽光面	59.85	30.30	28.26	1.07	
	日陰面	62.91	29.64	30.53	0.97	

3. 収穫時期と翌年の着果数との関係について表-5 に示した。2 年次における調査では収穫時期および分割収穫のいずれの処理区についてもあまり差はみられなかった。

表-5 収穫時期と翌年の着果数

(1990. 6. 26)

収穫時期	結果母枝の平均長	結果母枝あたり新梢数	結果母枝あたり直花果数	結果母枝あたり有葉果数	結果母枝あたり着果数
11/15	17.40 ^{cm}	5.23 ^本	0.55 ^個	1.00 ^個	1.55 ^個
12/15	17.39	7.55	0.28	1.08	1.36
1/5	17.53	5.61	0.60	1.50	2.10
分割収穫	17.62	6.80	0.22	1.65	1.87

4. 収穫果の果数および果実重を表-6、表-7 に示した。1990年度における収穫果数は1989年度に比べて、11月15日収穫で約40%、12月13日収穫果で約30%、1月14日収穫果は94%であった。また、3回に分割して収穫した果数は約57%で、2年次は裏年の関係でどの収穫時期も果数が少なかった。そして、最も果数の多かったのは分割収穫であった。今回の調査結果からは翌年の果数におよぼす影響は明らかでなかった。

表-6 収穫果の個数および重量(1)

(1989年度)

項目 収穫月日 樹体番号	全量収穫果数			全量収穫果実重			分割収穫果数				分割収穫果実重			
	11/15	12/15	1/16	11/15	12/15	1/16	11/15	12/15	1/16	計	11/15	12/15	1/16	計
1	個 388	個 430	個 306	kg 42.85	kg 38.30	kg 30.70	個 98	個 105	個 123	個 326	kg 10.00	kg 10.03	kg 10.70	kg 30.73
2	383	447	328	39.00	42.57	34.05	89	122	83	294	9.70	10.67	7.35	27.72
3	341	273	152	35.00	28.50	22.15	80	109	124	313	9.60	12.34	13.80	35.74
4	326	342	185	37.20	38.60	26.40	76	112	108	296	9.20	12.85	11.70	33.75
5	467	323	227	48.70	33.15	24.95	82	131	120	333	10.70	15.02	12.95	38.67

表-7 収穫果の個数および重量(2)

(1990年度)

項目 収穫月日 樹体番号	全量収穫果数			全量収穫果実重			分割収穫果数				分割収穫果実重			
	11/15	12/13	1/14	11/15	12/13	1/14	11/15	12/13	1/14	計	11/15	12/13	1/14	計
1	個 178	個 65	個 206	kg 27.44	kg 13.03	kg 23.20	個 27	個 29	個 39	個 95	kg 4.06	kg 4.42	kg 5.31	kg 13.79
2	21	102	163	4.82	19.68	23.05	30	29	47	106	5.27	4.97	6.90	17.14
3	194	72	209	27.29	15.43	23.02	57	50	77	184	8.43	7.61	9.36	25.40
4	134	177	253	21.29	24.90	28.45	77	55	86	218	10.22	8.07	10.59	28.88
5	245	105	177	36.47	17.77	21.84	80	75	133	288	10.67	10.73	15.64	37.04

参 考 文 献

- (1) 小原 誠・川野信寿 (1989) ワセウンシュウミカンの完熟栽培について, 園芸学会九州支部
発表要旨, 5.